

平成29年度

第1回文京区アカデミー推進協議会

議事録

文京区アカデミー推進課

日 時：平成29年5月31日（水） 18:30～20:30

会 場：文京シビックセンター5階 区民会議室A、B

委 員：会議資料名簿のとおり 欠席：1名 奥村委員

事務局：田中アカデミー推進部長、竹越アカデミー推進課長、鈴木観光・国際担当課長
木村スポーツ振興課長、横山オリンピック・パラリンピック推進担当課長

議事内容

○田中部長 皆様、こんばんは。定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第1回「文京区アカデミー推進協議会」を開催いたしたいと思っております。

本日はお忙しいところ御出席を賜りまして、ありがとうございます。私は担当のアカデミー推進部長をしております田中と申します。どうぞよろしく願いいたします。

会長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただくことをお許してください。

まず初めに、委員の皆様への委嘱関係でございます。本来であれば、区長ないし私からお渡ししなければならないところなのですが、まことに勝手ながら、お手元に委員各位の委嘱状を置かせていただいておりますので、御確認の上、納めていただければと存じます。平成31年の3月31日までの2年間という任期となっております。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、次第の3に入ります。まず（1）でございますが、会長、副会長の選出となっております。文京区アカデミー推進協議会の設置要綱というものがございまして、この第5条の規定に基づきまして、各お一人ずつ選んでいただくということになります。会長につきましては、委員の互選により選出ということになっておりまして、副会長については、会長が指名をするというつくりでございます。

それでは、会長につきまして、どなたか御推薦などがありましたら、お願いしたいのですが、いかがでしょうか。

塩見委員、お願いします。

○塩見委員 水越先生が今までいろいろとこの流れを御存じなので、会長に推薦させていただきたいと思っております。

○田中部長 ありがとうございます。

ただいま学識経験者でいらっしゃる水越委員を会長との御推薦がございました。委員の皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○田中部長 ありがとうございます。

それでは、会長には水越委員に決定させていただきます。

続きまして、副会長でございます。こちらは会長になりました水越会長から御指名をいただければと思っております。お願いいたします。

○水越会長 それでは、これまで苦楽をともにしてまいりました、こちらにいらっしゃる東洋大学の久松先生にお願いをしたいと思いますが、いかがでございますでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○田中部長 ありがとうございます。

会長の御指名により、副会長には久松先生に御決定させていただきます。

それでは、恐れ入ります。お二方につきましては、会長席、副会長席にお移りいただければと思います。

(水越会長、会長席へ移動)

(久松副会長、副会長席へ移動)

○田中部長 早速でございますが、水越会長、それから久松副会長の順で、それぞれ御挨拶をいただければと思います。よろしくお願いたします。

○水越会長 東京大学の水越伸と申します。よろしくお願いたします。

私は今回やります一種の評価活動のもとになる推進計画というものを、ここにいる結構多くの方々とつくって、自分自身でも文京区の中でいろいろ人々が物語りをするような活動の事業自体を仲間とやったりしております。十分なことができるかどうか不安なのですが、皆さんと一緒に楽しくやっていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

○田中部長 ありがとうございます。

次に、久松副会長、お願いたします。

○久松副会長 東洋大学の久松佳彰と申します。よろしくお願いたします。

先ほど苦楽をともにしていただいたというありがたいお言葉をいただきましたが、私も水越先生とこのアカデミーの推進計画をつくるのに参加させていただきました。ぜひともいい評価ができたらいいと思います。それは必ずしもしゃんしゃんで終わるということではなくて、次の世代、次の時期にちゃんと課題を残していく。それは必ずしもすぐ翌年に解決できるということではないにしても、ちゃんと課題を、質問を出していくということができればいいなと思っておりますので、皆様と一緒に進めさせていただければと思います。よろしくお願いたします。

○田中部長 ありがとうございます。

それでは、ここからの進行につきましては、水越会長に引き継ぎたいと思います。よろしくお願いたします。

○水越会長 きょう、皆さん初めて顔を合わせて、ここで一体どういうことをこれからやっていくのかということを確認する回になると思います。基本的には、事務局の竹越さんを中心に皆さんのほうから御説明をいただいて、私を含めてなのですけれども、これは一体どういうことなのだとか、何でこういうことなのだろうかという一番基本的なところを確認するということをきちんとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

私は基本的に「さん」づけで人を呼びますので、どうかお許しいただければと思いますけれども、基本、今日はそういう回になりますので、よろしくをお願いします。

最初に委員の方々の出欠状況及び配付資料について、事務局から御説明をいただきたいと思います。

○竹越課長 それでは、事務局から出欠の状況について、まず御報告をさせていただきます。奥村委員は欠席ということで事前に御連絡をいただいております、それ以外は皆様御出席ということでございます。

あわせて、配付資料の御案内をさせていただきます。委員の皆様には事前に「文京区アカデミー推進事業調査結果」というA3の大き目の冊子を郵送させていただきました。あわせてアカデミー推進計画及び計画の概要版を郵送させていただきました。本日、アカデミー推進計画と概要版を持ってきたという方は、席に1冊閲覧用というものを置いてございますので、持参している方は横においていただければ、席が大分狭いので、職員がとりに伺います。お持ちの委員の皆様は、恐縮ですけれども、横においていただければと思います。また、本日、お持ちでない委員の皆様は、その冊子をお使いいただければと思います。閲覧用という紙を張ってございますので、終わった際にそのまま置いてお帰りいただければと思います。

あわせて、本日席上には、次第と資料の1号から4号、参考資料の1号、2号を置かせていただきました。事前に郵送させていただいた調査結果、いわゆる資料4号は、本日お席に置いてあるものを最終的な案の資料としてお使いいただければと思います。委員の皆様は郵送で送った後に、私どもで気づいた部分を直してございますので、本日、お席に置いてあるものを使っていただければと思います。どこを直したのかというと、ほかのところの項目にも出ているものがあるのですが、それを全部再掲として載せているので、事前に郵送したものよりも厚くなっていると思います。また後ほど説明しますが、それぞれの分科会に分かれたときに見やすく工夫してございますので、今回お席に置いてあるものをお使いいただくということで、よろしくお願いいたします。

説明は以上でございます。

○水越会長 ありがとうございます。

皆さん、資料等、大丈夫でございましょうか。

それでは、とりあえずきょう初顔合わせですので、皆さんそれぞれ簡単なほうがあると思いますが、自己紹介をしていただければと思います。私から見て右手の日本女子大の田中先生から、こちらからずっと町田さんという順番で、最後、白井さんというところでお願いできますでしょうか。

○田中委員 名簿の上から3番目にあります、日本女子大学の田中と申します。

この計画づくりの最後のほうから参加させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○増田委員 増田純でございます。よろしくお願いいたします。

文京アカデミアの講座選定委員会で委員をやらせていただいております。この会には2年ぶりで、また舞い戻ってまいりました。よろしく願いいたします。（拍手）

○塩見委員 塩見美奈子と申します。

文京区生涯学習サークル連絡会の代表を務めております。昨年50周年を迎えて、また皆さんの活動に協力していけるように努力しております。ありがとうございます。（拍手）

○井上委員 こんばんは。文京区スポーツ推進委員会副会長をさせていただいております、井上充代と申します。

私もアカデミー推進計画、後半のほうから参加をさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○高澤委員 シエナ・ウインド・オーケストラの事務局の高澤でございます。

文京区さんとは2010年から提携をさせていただいています。よろしく願いいたします。（拍手）

○牧野委員 公益社団法人宝生会事務局の牧野でございます。

能楽宝生流の流儀の団体ということで、宝生能楽堂という能楽堂も運営しております。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○白井委員 観光協会を代表して参加させていただいております、白井と申します。

今回で3期目になりますでしょうか。また観光について、いろいろ皆さんと学ばせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。（拍手）

○荒木委員 東京観光財団の荒木と申します。

東京都のいろいろな観光施策を実際に実行していく財団になります。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○佃委員 私、公益財団法人アジア学生文化協会の佃と申します。

私どもは60年ほど前から留学生問題について取り組んで、現在、日本語等も含めてやっており、地域との交流にかかわっております。よろしく願いいたします。（拍手）

○海藤委員 初めまして。今、大学3年に在籍しております、海藤早希子と申します。

今回、区民の公募委員として参加させていただくことになっております。よろしく願いいたします。（拍手）

○黒木委員 黒木です。

区民公募で選ばれました。よろしく願いいたします。（拍手）

○佐藤委員 佐藤美智子です。

文京アカデミアの講座選定委員とインタープリターの会員をしております。どうぞよろしく願いいたします。（拍手）

○町田委員 町田菊男と申します。

文京区の観光ガイドをいたしております。私も区民公募委員に応募させていただきました。よろしく願いいたします。（拍手）

○水越会長 ありがとうございます。

奥村さんがいらっしゃらないということですね。お一人だけ御欠席ということですね。

○竹越課長 はい。

○水越会長 了解しました。

今、お話しいただいた方々が委員のほうの方で、文京区側の事務局の方々がいらっしゃいますので、自己紹介等をお願いいたします。

○竹越課長 それでは、区の職員の紹介をさせていただきます。まず、アカデミー推進部長です。

○田中部長 田中です。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○竹越課長 観光・国際担当課長です。

○鈴木課長 鈴木と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。（拍手）

○竹越課長 スポーツ振興課長です。

○木村課長 木村です。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○竹越課長 オリンピック・パラリンピック推進担当課長です。

○横山課長 横山と申します。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○竹越課長 申しおくれましたが、私がアカデミー推進課長の竹越と申します。

この協議会の事務局の担当でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。（拍手）

あわせて、事務局の職員を紹介させていただきます。

○萩谷係長 アカデミー推進係長の萩谷と申します。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○荒木係員 アカデミー推進係の荒木です。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○宇民係員 同じくアカデミー推進係係員の宇民と申します。よろしくお願ひいたします。（拍手）

○竹越課長 後ほど分科会に分かれていただきますが、その際に、それぞれの分科会の担当をさせていただきます係長級の職員を、また改めて御紹介をさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

以上です。

○水越会長 どうもありがとうございました。

先ほど久松さんから話がありましたけれども、基本的にこの会は、これまで1年度間やられてきたもろもろの事業について我々が評価をしていく。その評価案のようなものを区のほうに提出していくという立場にあります。是々非々でというか、いろいろ課題があるところは課題があるという形でしっかり言っていく必要がありますし、うまくいっているところはうまくいっていると言っていく必要があるということです。

今、御紹介を皆さんにさせていただいて、我々も含めてなのですけども、結構何年かこれにかかわっている人がいて、かえって目が曇るところがありますので、新しく来た人にはしっかりとそれを見ていただいて、みんながそうだそうだとおっしゃっているけれども、これは一体どういうことになっているのかということとちゃんと見るとおっしゃることを、私も含めてみんなで頑張っておっしゃりたいとお考えしております。

2点目は、これは後でしっかり説明をいただきますけれども、この区ではさまざまな事業がなされているのです。田舎の村の何とかと違うので、物すごい数がございます。それをしっかりちゃんとチェックしようとする、すごい時間と労力がかかることになって、最初に言っておくと、全部はできない。どう見てもできない。基本、ディテールを見ていくと、大体きちんとやってもらっているのです。だから、基本的には余り問題はないのです。ただ、この計画に照らしたときに、どういう方向に動かしていったらいいのかということ、これを我々は考えたわけだけれども、それと現実はどう違いがあるのかみたいなことを見ていく必要がある。

ただ、限られた時間でたくさんあるものを見るときに、どういうやり方で見ていけばいいか。これについては、ある程度工夫を凝らさないとすごいことになってしまうので、ある意味で駆け足でやらざるを得ない。駆け足で、でも、ちゃんとチェックしていくという難しいことを我々はやる。それを事務局の方々とある意味協力しつつやっていくということになるかと思えます。そういう意味では、なかなか難しい、何度やってもなれない部分がありますので、皆さんと確認をしながら進めていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

さて、それでは、この会は「文京区アカデミー推進協議会」と申しますけれども、これからどういう形で運営をしていくか、進めていくのかということについて、竹越さんから御説明をいただきたいと思えます。

○竹越課長 それでは、説明をさせていただきます。

資料1をごらんください。「文京区アカデミー推進協議会の運営等について」の御説明をします。

基本的に、委員の欠員につきましては、記載のとおり、原則として補充しないことになっています。ただ、団体推薦の場合には、団体から改めて推薦をいただくということになります。

この協議会は、原則として会議は全て公開になります。区民の皆様にも会議の傍聴を認めて、記録も公開することになっています。そのため、協議会の開催に当たりましては、場所や日時や傍聴の定員などをホームページで掲載をして周知してまいります。傍聴の定員につきましては、原則として15名として、受付は会場において先着順に行うということにしています。

傍聴者の禁止事項については、記載のところを後ほどごらんください。

協議会自体の撮影等については、原則禁止をしていますけれども、あらかじめ会長の許可を受けた場合には可能ということにしています。

資料の取り扱いですが、傍聴の方にも資料を配付いたします。また、資料は会議終了後、おおむね1週間以内に、シビックセンターの2階にある行政情報センターで、会議資料は配架して公開をするということにしています。あわせて、区のホームページにも公開をする予定です。

また、会議録の取り扱いにつきましては、全文記録方式によりまして、発言者の指名を記した上で公開をしております。内容の正確性を期するために、出席した委員の皆様は事前に確認をとるようにしてございます。そのため、公表までにはその確認作業がございまして、おおむね2カ月程度を要すると考えております。

また改めて御案内しますが、今後分科会を開催していくのですが、分科会は自由な議論を深めていただきたいと考えていますので、分科会は全文記録方式ではなくて、概要を要点記録として取りまとめて公開する予定です。こちらにつきましても、発言の趣旨の正確性を期するために、出席された委員の皆様は事前に確認をして公開しますので、おおむね2カ月程度を要するという事になっています。

その他、会議の運営につきましては、基本的には必要に応じて定めていくということにしているものでございます。

資料の説明は以上です。

○水越会長 今、これからやる会議の土台の部分について説明をしていただきました。全体会があって、分科会に分かれて、もう一遍全体会で全体をまとめるという形で、記録等々をどうするかは、今、御説明があったとおりでございます。今の進め方ということで、差し当たり、よろしゅうございますでしょうか。

それでは、この資料1で書かれている形で進めていくことにしたいと思います。

続きまして、この進行管理についてです。これを引き続いて、竹越さんから御説明をいただければと思います。

○竹越課長 それでは、これからある程度時間をいただき、水越会長が最初におっしゃったように、この会の目的だとか、どういうことを皆さんにやっていただくとか、資料の細かな説明をさせていただければと思います。本来はその場その場で皆さんが御疑念に思ったことにお答えできればいいのですけれども、まずは全部説明をさせていただいた後、質問があれば伺うという形をとりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、資料2をごらんください。「アカデミー推進計画の進行管理について」ということで記載しています。

この概要に記載のとおり、アカデミー推進計画そのものは、28年の3月につくられました。この中で進行管理をしていくということになっていまして、本年度より、前年度の実施した事業の内容について、点検・評価を行う。ですから、今年度は28年度に実施した事業について、点検・評価を行っていく。基本的には、その点検・評価については、それぞれ取り組みをしている担当課、事業を担当している課が自己評価を行う。その自己評価に対して、このアカデミー推進協議会で御意見をいただく。そのいただいた御意見は担当課にフィードバックをしまして、必要に応じて、その担当課が次年度に向けた既存事業の見直しや新規事業の検討をするときに、いただいた御意見を参考にさせていただくというよう形になります。

協議会は、名簿のとおり16名の皆様方で構成しておりまして、今後のスケジュールにつ

きましては、下に書いています、資料3をごらんください。A4の横の表になっています。表の半分より右側がアカデミー推進協議会になっています。本日は5月31日、ちょうど5月の協議会と書いた真ん中あたりです。31日の会議になっています。この会議の前に、区でアカデミー推進本部がございまして、その本部で了解をされた内容、その本部を開くために幹事会というもので了解をされた内容という形で、区の中である程度オーソライズしたものを、この協議会にお示しをしているということになっています。

この協議会の後、それぞれの分野に分かれて分科会を開催して、御意見をまとめてもらって、7月19日に2回目の協議会を開催して、そこで協議会の意見として取りまとめてもらう。非常にタイトなスケジュールになっています。何でこのようなタイトなスケジュールになっているのかというと、区に御意見として出していただいたときに、区としては、それを御参考にさせていただいて、次の年度の予算をつくるのに反映をさせていく。協議会としても、ぜひ自分たちの意見を直近の予算の場で反映させてもらいたいということもあるでしょうから、そういう形で、ちょっとタイトなのですけれども、7月までにまとめていただきたいということです。

スケジュールとしてはこういう形で進んでいきますので、きょうは後ほど、分科会の顔合わせ的な形で、それぞれ分科会に分かれてもらいまして、きょうは顔合わせで、こんなことをしましょう、あんなことをしましょう、次回までにこんなことを調べておいてくださいというような顔合わせをさせてもらえればと思っています。

次回の分科会を含めて一番使っていただく資料が、この資料4です。これもごらんください。こちらの資料の見方を説明させていただきます。見開きで開いたときに、開いた表紙の裏になりますけれども、【凡例】ということで「『目標1』～『目標4』については」というような言葉が載っております。この説明は後ほどさせていただきますが、その右側、1ページ目には1番から13番まで調査結果が載っておりますけれども、そちらをごらんください。

表の見方だけ先に御説明させていただきます。表の一番左側、1ページ目は1から13までが並んでいますが、これは単純に事業の順番を上から並べていますので、一番最後は40ページの426番ということになります。ここには426の事業が並んでいるということです。ただ、それぞれの分野の中で、ある事業がほかの分野とも共通しているというものもございまして、それは再掲という形で載せていますので、実際は300弱の事業が載っている。それが再掲という形をとると426事業あるということです。

御説明するのにわかりやすく聞いていただくために、アカデミー推進計画の12ページ目と13ページ目をお出しいただきながら、説明を聞いていただければと思います。各分野目標と基本的な方向というものが記載されています。この冊子に書いてあるこの枠の中に、今回のこの426の事業の全てが順番にまとまっている形になっています。例えば一番最初、表の一番上です。「1 生涯学習 1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実 (1) 多様な講座や学習機会の提供・充実」と1行目に書いていま

す。それはこの12ページの緑色の枠の部分の「1 生涯学習」ですね。これの「1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」、その基本的な方向の「(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実」に該当する事業がここにずらっと並んでいます。その事業は、さらに3ページ目の途中までがここに該当する事業に当たるということです。

もう一度A3の表を見ていただきたいのですが、表の一番上の説明があるところです。一番左側の上です。「体系No. 関連体系」と書いてあります。1番目の事業は1-1-(1)と書いています。これが今、繰り返して説明している「1 生涯学習」の「1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」の「(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実」の部分の番号ということになります。

その横の「頁」というのは、これはページです。このアカデミー推進計画の何ページにこの事業のことが出ていますよというページを示しています。ですから、1番目の文京アカデミア講座は、18ページに載っているという意味になります。

その隣の「実施計画」というものは、これは文京区の実施計画というものがございまして、その実施計画に計画化されている事業の番号を参考に入れてあります。それで「事業名」が書いてあり、その横は「概要」、その事業の概要が書いてあります。真ん中あたりが「28年度実績」。1番の文京アカデミア講座は、実績ということで、大分細かく人数まで含めて入れています。

その横にレ点があって、「目標1」から「目標2」「目標3」「目標4」となっています。ちょうど右側のページのところに凡例として、表の目標1から4については、この計画の7ページに4つの共通目標を載せています。この計画は、その4つの共通目標のいずれか、もしくは全部かもしれませんが、共通目標を設定していますということを記載して、この事業はその共通目標のどれに該当するかというのをレ点で入れています。共通目標の1が環境形成にかかわるもの、共通目標の2が人づくりに関係するもの、共通目標の3はつながりの構築に関係するもの、共通目標の4は価値の協創に関係するものということで、この中のどれに該当するか。例えば文京アカデミア講座は共通目標で言う1番と3番、環境形成とつながりの構築に該当しますという形での記載になっています。

それで、このA3の紙の【凡例】のところに記載して、下に【参考】ということで表が載っていますけれども、今回426の全部の事業の中で共通目標として何個ぐらい該当するのか、チェックされているかということ載せています。例えば「1 生涯学習」で言う、一番上の「1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」は、事業総数は90あるけれども、そのうち共通目標の1の環境形成にかかわるものは76あります、目標の2の人づくりにかかわるものは43ありますという形での数になっています。

表の説明をさせていただきますが、その共通目標の横、右手側には「特記事項（効果と課題）」を入れています。全体的に見ていただくものの数は多くなっています、委員の皆様には、この一件ずつすべて見て、全部評価しろということ、私どもも求めているわ

けではありません。要は、この事業結果そのものは426あるように、たくさん数があって、事業の一つ一つに着目して見ていただくというのは、まずは一義的にはそういうことになるかと思いますが、今回の点検・評価については、その委員の皆さんが1件ごとの事業について、これはマルだとかこれはバツだとかというような評価を下すことは、先ほど会長もおっしゃったように、現実的ではないかなと考えています。むしろ、一つ一つの課題を捉まえた上で、全体の方向性を俯瞰していただくことが必要かと。全体の方向性を考えていただいた上で、どういう方向がいいのかということを見ていただく、もしくは御意見をいただくことかなと思っています。

また、誤解を恐れない言い方をしますと、団体代表の皆さんは、特定の事業についてのみ御意見を伝えるということは、もしかしたら、偏って見られる場合も出てしまう。同様に、区民委員の皆さんが、もし自分に興味のある分野のみに固執して発言をされると、それもまた偏って見られるかもしれない場合がある。むしろ、私どもはそれぞれの専門的な活動や、個人的な活動など、そういう個人的な資質を通して得た知識や知恵などを生かしていただいて、大所高所から事業全体なりを俯瞰して見ていただきたいと考えています。ここで、これから分科会において使用する表の参考例を配らせていただきます。

(資料配付)

○竹越課長 今、お配りさせていただきましたが、これは1番目のものの参考例ということで見ていただければと思います。要は、12ページ目と13ページ目のこの表がありますけれども、この分野別目標に分かれている部分を全部足すと、緑色の生涯学習の分野は分野別目標が3つ、スポーツの分野は分野別目標が4つ、文化芸術の分野は分野別目標が3つ、観光の分野は分野別目標が3つ、国際交流の分野は分野別目標が2つというように、全部で15の分野に分かれます。最終的に報告、要は協議会の案をまとめてもらうときに、この15の分野について、総合的にはまとめていただくというようなこととなります。

今、1枚お配りしたのは、これは生涯学習の1番目の分野別目標の紙になっています。これがほかの分野も含めて全部で15枚ございます。この中には、基本的な方向として(1)から(4)がございます。この(1)から(4)を、先ほどのA3の資料で、事業がどのぐらいの数なのか(1)から(4)をずっと見ていくと、90も事業があるわけです。この90の事業を1枚の紙にまとめるというのは現実的な作業ではないので、それこそ、90の事業を一つ一つマルだバツだをつけるのではなくて、会長が先ほどお話ししていた、方向性がもともとの計画の中から見たらどうだろうかとか、今、世の中のトレンドはこうだからこういう方向も視野に入れたらどうだとか、そのような形で意見を言うていただくことになるのかなと思います。

それで【取組状況の評価】というところは、この生涯学習の分野で言えば、90ある事業を、一つ一つは一義的には見ていただくのですが、見ていただいた上で、取り組み状況はそれぞれの委員の皆さんはどのように評価をしているか。その辺は、この紙を使っただいて、御自身なりの評価をしていただくような形になるかと思っています。それと【課題と

今後の対応・方向】、これについても、全体として見た中では、今後の課題としてはこのようなことがあるのではないかと、これからの方向としては、世の中のトレンドはこうだから、こういうことも取り入れたらいいのではないかとというような形で、ここの表を使って御意見をいただくということになります。

分科会では、それぞれの委員の皆さんにこの表を参考にして議論を深めていただき、最終的には分科会として、その15の分野別目標それぞれについての取り組み状況の評価、また、課題と今後の対応・方向について取りまとめていただくという形になります。全体の作業としては分科会が中心になるのですが、それぞれの委員の皆さんには、繰り返しのようになりますが、まず、この426の事業全体を見ていただくのですが、全体は俯瞰して見ていただいた上で、それぞれの分科会に分かれたときに、御自身が該当している分科会の部分のところについて、改めてそれぞれ一件ずつの事業を、まず1回全部見ていただく。見ていただいた上で、全体を通して取り組み状況の評価を、それぞれの委員の皆様方の判断なり考えなりで記入していただいて、課題と今後の対応・方向についても御記入いただいた上で、分科会の場でまた議論していただき、ほかの委員の御意見なども伺いながら、だんだん分科会としての意見を最終的にまとめていただく。それを最終的に協議会全体として取りまとめていただく。そのような形の作業になるのかなと思っています。

また、後ほど分科会のお話はさせていただきますが、この紙を、その分科会ごとに分けたところでお渡しをさせていただきますので、このアカデミー推進計画と、今、見ていただいているこのA3の表ですね。これをお使いいただきながら、それぞれのお立場で御意見をいただくというのが、この会の作業になるのかなと思っています。それを7月までに取りまとめるということですので、タイトな作業になりますけれども、流れとしては、そうなります。

大変雑駁でございますけれども、説明は以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

ややこしいですよ。いろいろあって、このA4ですか。これをまとめて、差し当たり、これは大変な作業のはずで、よくまとめていただいたという感じがします。ここがきょう一番大事なところだと思うので、ここは少し時間をかけたいと思うのですが、私も自分が全部よくわかっているのかどうなのかよくわからないところがあるのですが、私のほうで少し補足というか、コメントしますけれども、田中さんと久松さんのほうから、ほかの方々もあれだと思うのですが、この計画をつくるときの思いというか、あと、価値創造云々という、これは主に田中さんに出していただいた、4つのこうなっているものがありますね。あれと5つのものは系が違うではないですか。そのあたりとか、私が話した後で少し補足をしてもらえればと思います。

言わずもがなのところもあるかと思うのですが、自分自身の確認のためにも言うと、一つは、この推進協議会というのは、今、お話があったとおり、点検チェック、評価をするところなわけですから、それで、これは田中部長にお願いをしたいのですが「進行管理」

となっているのです。これは全体のときも出たのですけれども、我々は別に進行管理はしていない。個別事業の進行管理をするとすると、これは職員だろうみたいなことになるので、もちろん進行管理の一環、最後として点検・評価があるという考え方はあるのですけれども、我々が前にやったときには、これはわかりにくいので、むしろ点検・評価と言ってもらったほうがいいのではないかと。

○田中部長 会長がおっしゃるとおりで、私のほうからの指示で、文面は直しました。ただ、タイトルはこのままになっているということです。

○水越会長 今回はもうこれが始まっていますので、始めてから基準を変えてしまうとだめなので、次回以降、来年度以降といいますか。

○田中部長 おっしゃるとおりで、中身の、資料2もそうなのですが、このタイトル自体が進行管理ではないという認識は、事務局には徹底はしております。ですから、文面にありますように、点検・評価ということでございます。この冊子の82ページに体系図がございますが、今、会長がおっしゃったようなところで、文京区と協議会との関係は、検討の依頼をして、その意見・提案をもらうということです。策定するときには1つ目の中点なのですけれども、前年度の実績を確認する場合には、下の中点の「実施状況の点検・評価」、これを区に返していただくということでございます。いわゆるPDCAサイクルを回していくということでございますので、言葉としては申しわけない部分がございますが、概要のところ記載のとおり、点検・評価ということで御理解をいただければと思います。

○水越会長 それから、先ほど竹越さんからタイトだと言っていて、確かに皆さんお忙しいところを月に2回など集まるような感じになるのでタイトで、申しわけないと私が言うのも変なのですが、申しわけないのですが、実は私はこれは3回目か何かなのですが、初めころはゆっくり秋ぐらまでやっていて、やったら、もう予算の何とかも終わってしまっているということで、何のためにやっているんだよみたいな話になったのです。そうだとということになって、結構前に倒してきたということがございます。

皆さん、繰り返して言うと、お忙しいので申しわけない反面、集中的にやらないと、1カ月ぐらいあいてしまうと忘れてしまうということがあるのです。ですから、集中してやっちゃって、7月半ばぐらいにその結果がここで提示されれば、事務局としても、9月にある議会の前に、いろいろなネゴシエーションの時間がある程度とれるということで、我々が言うことが全てではないですけれども、ある程度反映できる可能性が高まるわけです。これをゆっくりやっていると、それはもう機を逸することになるので、文京区はこれだけをやっているわけではなくて、大きいところですから、その中でいろいろな切った張ったがあるわけで、そういう意味でいうと、7月の半ば過ぎまでにこれをやるということがいいだろうということになっています。ざっくり言うとそういうことです。

もう一個は、この表なのですけれども、繰り返し言うと、これはすごく大変な作業で、これは本当に大変なのですが、今、御説明をいただいて、おわかりにならないところがあったらぜひおっしゃっていただきたいと思うのですけれども、1個だけポイントは、言い

方は難しいのですが、例えば開いて1ページ目のところの一番ど頭に文京アカデミア講座というものがあって、1-1-(1)という体系の中に入れてあるわけですね。これは増田さんなどが関係あるところだと思えるのですが、要するに、この事業が1-1-(1)に入っているよということは、判断をしてもらったことになるわけです。わかりますか。これはこう決まっていることではなくて、この15のカテゴリーの中に入れるとすると、どこに入るのだろうかということで、これをここに事務局の人が、言い方によれば苦労してちゃんと見つけて、ここに該当してくれたとも言えるし、ある意味で、判断をしてくれたとも言えます。ですから、事業自体はこの15の区分に初めから沿ってできているわけではなくて、いろいろな故事来歴があって、この事業はあるわけです。それをどこに入れればいいのかということの判断をしてもらったということです。

だから、場合によると、この判断がずれている場合もあり得るわけですし、例えば1ページの真ん中ぐらいの「CATVによる情報提供」云々のところは、5つぐらい並んでいる。5つ並べるのも大変だったろうと思いますけれども、大体わかると思います。5つぐらいになってくるとちょっと怪しくなると言うのは変ですが、1-1-(1)がここだというのははっきりしているのだけれども、ここは5つぐらいに入っているねということを使ったということなわけです。わかりますね。そうすると、こうやってシートになっていると、もう完全に決まってここにこれが入っているように思うけれども、これはちゃんと事務局が苦労して判断してくださったものである。

私が言いたいことは、ここにある15の目標とこの事業は、一応別のものなのです。繰り返して言うと、事業はもう事業として何年もやってきているものですから、この枠組みは28年度でつくったものなので、この枠組みで。

○久松副会長 はい、去年つくりました。

○水越会長 そうですね。いずれにしても、この15の枠組みというものの目標と実際にこの事業がなされている目標が完全に一致しているわけではないわけです。事業は事業、それぞれの目標があって、それを抽象的に言うところの枠に入るよということですので、そこに若干のずれが物によってはあり得るということになります。

あるいは、そこに該当するということでもいいのだけれども、目標をちゃんと達成しているかどうかはわからないという場合があるわけです。うまく説明できているのかわからないのですけれども、おわかりいただけるでしょうか。つまり、この表は誰かが苦労してつくっていて、苦労してつくっているとも言えるし、どこかで無理がある部分もあるということです。事業は事業でなされていて、その枠ときれいにマッチしているわけではなく、そこはある程度しっかり読んでいくとわかっていただけるのではないかとということです。

あとは、その評価の基準は、先ほどちらっとトレンド云々の話がありましたけれども、差し当たりはトレンドではなくて、この計画に出ている目標に沿ってやるということです。ですから、何か今AIがブームだからAIでみたいな、そういう話ではない。それは半分冗談

ですけれども、例えば文化芸術というのはたしか私が前に担当したところなのですけれども、文化芸術を見ると、ざっとどういうことが書いてあるのかということ、要するに、文化芸術は文京区ですごく盛んなのですけれども、見たり、聞いたり、楽しんだりするものが多い。月に1回など行っている人が何割とか、要するに、多くの人はオーディエンスなのです。なされている演技などを見たり聞いたりして楽しむお客さんなのです。この目標の中には、自分でもそれをつくっていき、文京区の新しい分野や何かをつくっていきというところが入っているわけです。だけれども、それはこれを見ているとわかると思うけれども、目標4というのはほかに比べると数が少ないということになっています。つまり、文京区は十分資源もあるし文化もあるから、それを見たりする人は多いのだけれども、見るだけではなくて、自分も入って楽しむということ、音楽でも何でもやるという人をもっとつくっていきよという、そういう課題がここの中に書いてある。果たしてそれにこれがマッチしているかということを見ていくということになるわけです。ですから、基本はこの基準も全てこの計画の中に入っているということが言えるだろうと思います。

そのほか、この表の見方等について、疑問とかわからない点があったら、ぜひおっしゃってください。

大丈夫ですか。

この該当ページがないものは、要は、そういうように具体的には記されていないということですね。竹越さん、そういうことですね。

○竹越課長 はい。本のページには掲載されていないということです。

○水越会長 この計画の中に出ている事例は、こういうものがありますということを行っているわけで、別に該当箇所がページでなくても、別に何か評価が下がるとか、そういうことでは全くないですね。

○竹越課長 ないです。

○水越会長 典型例としてこういうものが挙がっているということです。よろしいでしょうか。

久松先生、私が漏らしたり、補足があれば、ぜひお願いします。

○久松副会長 この後、田中先生には6ページ、7ページ、8ページのところを御説明いただこうと思っていますので、私からは、もう既に説明はされたことなのですけれども、もう一度強調したいこと、82ページ、83ページ、それから、資料2をごらんください。

つまり、我々がやろうとしている点検・評価ということは、御存じかと思えますけれども、83ページのこの図にありますようなPDCA、プラン・ドゥー・チェック・アクションのチェックのところであって、その後、まさに予算のところへ向けてアクションを促していくというところにあります。

それで、このチェックというのはいろいろなやり方がありまして、事業が少なければ、もう全部見に行くということもありますけれども、我々は300の事業ですので、それは実際に無理だと。最も抽象的なやり方は、こういう調査結果のような文書が出てきて、これを

読んで終わりというのもあります。例えば、何か大学についての評価を受けるとかというときに、こういうものを書けと言って、出して、終わりというものもあります。我々のこの文京区アカデミー推進事業は、非常に私自身はまともだと思いますけれども、つまり、全部見に行くのは無理だと。でも、文書だけつくってというのはやらない。つまり、その間に行くわけです。時間の短いところでやる。

では、それは何なのかというのが、この資料2のところの概要の2段落目です。「具体的な点検・評価の方法は、年度ごとに取り組みの進捗状況を担当課が行う自己評価について」と、これがこの調査結果になっています。つまり、既に調査・点検というのは、最もそのアカデミーの事業を御存じの担当課が、実際に自己評価しているということなのです。なので、そこで恐らくは、その評価をしている段階で、これはいまいちだなどか、これはすごくうまくいっているなどか、そういうものがまさに進行を担当されていますから、出てきているはずなのです。

それが具体的に言うと、先ほどの「特記事項（効果と課題）」というところで、ざっと見ていただくと、意外と課題は結構あるのです。書かれているのです。それは、まさにこの担当課の意識を表現しているということだと思います。つまり、次年度に向けてよくなっていく可能性が非常に高い、意識を持っているということなのです。つまり、それを我々は、この御意見をいただく、この御意見をすることになりますので、それを伺うということが分科会のほうであるということになります。

つまり、そのときに我々としては、ある意味では、もちろん各分野のプロの方もいらっしゃるわけですが、他分野についてはかなり素人なわけです。そうすると、お話を聞いていて、これがしっかりと体系的に、その体系というのが先ほど会長から説明がありました目標などになるわけですが、それに応じた形にきちんと説明されているかです。そこにひょっとすると、担当課のじくじたる思いも出てくるかもしれません。でも、それはある意味では次年度に向けて非常にいい兆候なわけです。そこを直していけばいい。それを認識しているわけですから。そのところを受けとめて、それで全体像を返していく。ひょっとすると、我々が例えば広報が課題ですといったときに、何か新しいことをちょっとは言えるかもしれませんね。

それはそれでベネフィットになるわけですが、我々が答えを出すことを求められているわけではなくて、PDCAとしてもう既に自己チェックとして回っているものをちゃんと受けとめて、それについて促していくということです。ここはPDCAの中ではすごく大事な作業、つまり、自分でしゃべり手と聞き手は両方できないので、担当課がしゃべり手になって、我々はきちんと聞く。受けとめる。もしそこに、ここにある目標に応じて違うところがあれば、そこはまさに我々が、先ほどのような文書のところで評価したり、方向性について書き込んでいくということになるかと思います。

そうすると、恐らく担当課の方は、この非常に時間のかかったものをつくり、それを短い時間で説明していただくというところで、まさに次の年度に向けての、こうしていこう

とか、どうしていこうという意識が高まっていくわけです。それを、そのまま我々が潤滑油にもなり、もちろん違うなと思ったところと言うわけですけれども、そういう部分がすごく大事なのではないかと思っております。

そのようなところで、では、どういう目標でというところを、ぜひ田中先生に6ページ、7ページ、8ページ、9ページ、そのあたりを少しお願いできればと思います。

○田中委員 ありがとうございます。

何かりレークチャーみたいな、だんだん聞いているほうも大変になってきましたね。もう少しですから、授業だったらここで伸びをるところなのですけれども。

では、基本に立ち返って、このきれいな冊子、そもそも何でこれができたのか。前回からかかわっている方はもう当たり前のようにわかっていると思いますけれども、初めての方もいらっしゃるので、簡単に振り返りながら、こういうことをめがけてこの計画はつくったのだということを確認してみたいと思います。

まず、6ページを見ていただけますか。何かキャッチフレーズみたいなものを書いていますけれども、文京区は、私の大学のキャンパスは川崎市にあって、だだっ広く伸びていますが、サンドイッチのジャムみたいに東京と横浜に挟まれて、ぎゅっとこんなに細長いのです。そういうところから見ると、文京区は割ときっちり固まっているだけではなくて、大学が19もある。これはすごいですね。そういう資源をもっと有効に使えないかということから始まった計画なのだと思います。この6ページの2行目に書いてある19の大学、それから、そのほかいろいろな教育施設とか教育機関がたくさんある。これが1つ目です。

2つ目は、その下にありますけれども、森鷗外、夏目漱石云々と書いていますが、かなり文化的な、あるいは歴史的な拠点になるようなものが本当にたくさん、いわば23区の中でもぎっしりと詰まっている地域ではないかと、そういう文化的な資産がたくさんあるというのが、2つ目です。

3つ目には、その下の行に書いていますけれども、文京区自体がさまざまな公共施設をつくって、人々の学びや文化的な活動に資するように用意していただいている。これが3つ目です。

最後、4つ目は段落が変わりまして、次の段落の最初の行にありますけれども、かたい言葉で言うと「人材」といいますか、要するに、いろいろな力を持った人々がたくさんいらっしゃるということ。大学や教育機関、文化的な資産、それから、公共施設、さらには人材、こういうものがたくさんあるものですから、これをうまくつなげて、区民の方々が、あるいは区民だけではなくて外からやってくる方々が、いろいろな学びをして、学びながら交流して、みんなで豊かな地域をつくっていけばいいのではないかと。そういうことを狙いとして、この計画がつくられたと思っているのですけれども、それで大丈夫ですか。

○竹越課長 はい。

○田中委員 では、そういうことのようなのです。それをどういう言葉で一言であらわす

かということで、一番上にあります「区内まるごとキャンパスに」という、文京区全体が一つのキャンパスだということですね。人材はいるし、文化的な資産はあるし、大学もいっぱいあるしということです。副題として「『文の京』、豊かな学びと交流を生み出すまち」ということで、文化的な地域、文京的な地域、これをますますよくして、自分たちの豊かな生活を高めていくためにどうすればいいか、それを考えよう。それが基本的な理念と言っているのだと思います。

では、理念はわかったのですけれども、一体それをどうするか。そこで、目標というものが出てくるのです。

8ページを見ていただけるでしょうか。今、確認した基本理念というものが一番真ん中にあります「区内まるごとキャンパスに」。こういう理念を実際に実現させるために、我々は4つの目標を掲げていこうということで考えました。この「区内まるごとキャンパスに」の左下にある「環境形成」。言葉がかたいですけれども、要は、いろいろな文化施設や教育機関や人材がいっぱいいるものですから、これをうまくつなげて、区民一人一人が豊かな学びとか文化的な生活ができるような環境をうまく整えましょうということ。これが一つです。

もう一つは、環境が整っていても、それをうまく使うためにサポートしたり、引っ張っていったりしてくれる人が必要だろうということで、その上のほうに線で結ばれて、「人づくり」というものがあります。この人づくりは、職員の人づくりも大事ですけれども、区民の人づくりですね。区民一人一人の中から、そういう人々が、リーダー的な方、コーディネーター的な方、いろいろなことをやってくくださる方が出てきて、いろいろな活動をしていただくという、この人づくり。

さらには、人がうまく育っても、それぞれがばらばらでは仕方がないので、つながりというものをうまく考えて、活動全体がつながっていくようにしましょうと。区民全体がつながっていくようにしましょうと。それが「つながりの構築」ということです。

もう一つ、最後に大事だと思ったのは、下のほうに行きまして「価値の協創」と、またかたい言葉がありますけれども、要は、文京区はほかの区に比べて、あるいは、ほかの市町村に比べて、一体どういう特色があって、地域アイデンティティーといいますか、文京区ならではのものをどうやってつくっていけばいいのか。文京区らしさといえますか、そういうものを価値の協創と書きましたけれども、文京区らしさをみんなで協力しながらつくっていきましょうということで、協創という言葉で書きました。

そういうことをやりながら「区内まるごとキャンパス」を豊かにしていこうという目標を掲げながら、こうやっていこうというようなことなのです。これが基本だと思っています。

しかし、分野がいろいろあるので、一括では難しいので、5つぐらいの分野に分けて考えていこうということで、一番上から「生涯学習」、右に行って「スポーツ」「文化芸術」「観光」「国際交流」という、分野別にこういうそれぞれのことを考えてやっていこうと

いうことで、この計画ができたという形です。

計画づくりにおいて、区民の方々が、それぞれ活動している方とか、区民公募の方に本当にたくさん集まっていたいて、5つの分科会に分かれて本当に濃密な議論をしながら作り上げてきた。こういう計画は珍しいと思うのです。往々にして、事務局が案をつかって、委員の方々は意見を言って、ちょっと修正してできるというのがよくあるパターンですけれども、文京区のこの計画づくりは、本当にもうボトムアップというか、区民の方のそれぞれの意見をうまく合わせながらこれができ上がったので、区民みんなで作った、委員の方みんなで作った計画だと思います。

そういう計画のもとに、今、いろいろな事業が行われているということで、先ほど出てきましたこの目がちかちかするような、四百二十幾つですね。よく事務局はこのような表をつくっていただいたと水越先生もおっしゃいましたけれども、これだけできるというのはすごい能力です。これだけのものがこの計画の範囲でおさまっているのですね。ですから、我々は、今、確認した共通目標とか、それぞれの分野別とか、こういうもので区民の方々が一生懸命考えてつくった計画に基づいて、こうやって行われている事業が本当にこれでいいのだろうかということを、ちょっと考えてみたらいいのではないかというようなことです。

点検・評価というと、点検・評価って何をやるのと思ってしまうわけなのですけれども、私もこれはざっと見ていて、一個一個がどうということもとても難しいし、でも、一個一個何をやっているのかちゃんと書いてくれているので、ある程度イメージが湧くのがあったり、また、湧かないものもあると思うのです。

では、どうやってこれを点検したり評価をするのか。私なりのイメージなのですけれども、まずは、例えば1ページ目を見ていただくと「1 生涯学習」の「1. いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」、これはタイトル自体が長いのですが、こういうものがあって、「(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実」とありますね。これがずっと続いていて、何と3ページの中ほどまで行っているのです。これが(1)の中身なのです。

続いて、今度は(2)は3ページの中ほどから始まって、またずっと行って、5ページの中ほどまで行きますね。生涯学習は特に多いのですね。大体半分ぐらいを占めている。これだけあるのをどう見るかですけれども、まずは、多分これは(1)(2)と、それぞれの分野についてありますが、数としてこれだけでいいのかどうか、あるいはざっと見て同じようなものを別々のところでやっているのではないのかとか、そういう量的な感じですね。本当にこれだけでいいのかどうかということ、あるいは、もしかしたらやり過ぎではないのか、税金を使ってもっとほかのことをやったらいいのではないかという量のイメージですね。それをまずざっと見てみていいのではないかと思います。それが一つです。

もう一つは、今度は中身なのですけれども、特に私がぱっと見て感じるのは、5ページの(3)です。あらゆる立場の人たちに対応した学習支援。あらゆる立場とはどういう方々

かという、例えば障害をお持ちの方であったり、外国から来た方であったり、いろいろな立場の方々がいる。それから、子育て中のお父さん、お母さんで、なかなか時間が難しい方、あるいは職業人でとても忙しい方とか、いろいろな立場の方がいるわけで、例えばこの（3）であれば、5ページの中ほどから6ページの終わりまでありますけれども、そういうそれぞれ何か大変な条件を持った方々にとって、ちゃんと支援が届いているかどうか。例えば、この外国人の方について欠けているのではないかとか、障害者の方向けにもうちょっと充実したほうがいいのではないかとか、要するに、その事業の対象ですね。対象と言うと変ですけれども、区民のいろいろな立場の方々にとって、これがちゃんとバランスがとれているかどうか。そういうことも評価のポイントになろうかと思えます。

それから、中身的に、例えば1ページに戻りますけれども、（1）多様な講座や学習機会とありますけれども、多様と言っているけれども、中身的に欠けている分野があるのではないかとか、そういうことがチェックできればそれもいいと思う。あるいは方法の面から見て、学習機会といっても対面型でこうやって教室でやる講座ばかりではなくて、通信型の先ほど出た8番目の項目、CATVによる情報提供などがありますけれども、こういうメディアを使ってやるものがもう少しあってもいいのではないかとか、そういう観点もあろうかと思うのです。

ですから、ざっと見て、量的にこれでいいのかという問題と、もう一つは質的といえますか、この中身として区民の対象別に見たときに大丈夫か、内容的に見たときに大丈夫か、あるいは方法から見たときに大丈夫か。そういうように、今、私は例を言っただけなので、幾つか見る観点があるかと思えますし、それぞれの方の御経験から、独自の観点があると思うのです。そういうものを出し合いながら、これでいいのだろうかということをみんなで考えていけるといいのではないかと思えます。

長くなりました。済みません。

○水越会長 どうもありがとうございました。

田中先生は生涯学習が御専門で、一番こういう分野にお詳しいですので、しっかりお話をさせていただきましたが、3人学者が続くと話が長くて申しわけございませんでした。これはお二人のせいではなくて、私なのですが。

以上、少し事務局から説明していただいて、我々からも補足をさせていただきました。時間が長くなりましたけれども、皆さんのほうから何かございますでしょうか。

それでは、少し進めてまいりたいと思います。わからないことがありましたら、今言っているのかなと思わないで、どんどん言っていただければと思います。

今の説明は、かなり事務局の方にとってもよかったのではないかと。計画はこういうことだったのねということが、大きくうなずかれています方が多いのがうれしいような、何かあれなのですけれどもね。

今、ここにきょうはお一人いらっしゃいませんが、16人のメンバーがいて、スポーツ、観光など、5つあるわけですね。これから、これは来月に入ってからのことになりますけ

れども、前は5つに分けてやっていたのですが、5つに分けてしまうと本当に一個一個だけになってしまうのです。2つぐらいやったほうが、自分に非常に近いところとちょっと違うところとやったほうが、かえって岡目八目でわかるということがあるので、少し分科会をやや数を減らしつつ、皆さんにそこに分かれて入ってもらおうということにしていきたいと思っております。

少しその案を事務局で検討してもらっていると思いますので、済みませんが、それを説明していただけますでしょうか。

○竹越課長 今、事務局の案をお配りしてございます。

(資料配付)

○竹越課長 先ほど田中委員からもお話がありましたが、数が大分多いので、数も勘案しながら、5つの分科会を3つに分けました。生涯学習の分野、スポーツ・文化芸術、観光・国際交流、いじょうの三つの分科会です。

お配りした表をごらんください。基本的にこの資料は案としてお示ししておりますので、団体推薦の委員の皆さんは、該当するであろうところに分けてございます。4人の区民委員の皆さんは、それぞれ御希望はあるのでしょうかけれども、どこかに偏ってしまうとよくないので、大変恐縮なのですが、4人の方が適宜散らばるような形で、生涯学習にお二人、スポーツ・文化芸術にお一人、観光・国際交流にお一人という形で分かれていただけるとありがたいなと思った案をお示しさせていただきました。

以上です。

○水越会長 ということでございます。いかがでしょうか。

まず、名前がもう載ってしまっているのですが、これは嫌だとか、これはいわば身内というか、この中で3つに分けていこうということで、ですから、例えばスポーツ・文化芸術にいる井上さんがどうしても生涯学習も見たければ、見に行ってもらってそれは構わないのです。ただ、全部もできないだろうから3つに分けているということで、御興味があればいろいろ見ていただいてもいいかとは思っています。

○竹越課長 区民委員の皆さんは、この場で決めるのは難しいでしょうから、事前にお話をさせていただきまして、それぞれのこれまでの取り組んできたことだとか、そういうものを勘案して、先ほど御意見を伺いました。それについては職員からお話をさせていただきます。

○宇民係員 お願いしたのが、区民委員の海藤早希子さんがスポーツ・文化芸術の分科会、黒木美芳さんが一番上の生涯学習の分科会、同じく生涯学習の分科会に佐藤美智子さん、町田菊男さんが観光・国際交流の分科会ということで、いかがでしょうか。

○竹越課長 最終的にこういう形になりました。

○水越会長 ありがとうございます。

皆さん、これでよろしゅうございますでしょうか。一応、先ほどのスケジュールにありましたように、それぞれの分科会でいつ分科会をやるかをある程度考えております。

○竹越課長 先ほどスケジュールの中でも御説明しましたが、生涯学習の分科会は6月16日金曜日と6月22日木曜日を予定しています。スポーツ・文化芸術の分科会は6月15日木曜日と6月21日水曜日を予定しています。観光・国際交流の分科会は6月15日木曜日と6月21日水曜日を予定しています。いずれも、きょうと同じ夕方6時半からの予定です。御案内の通知は改めてお出しさせていただく予定です。生涯学習だけ別日で、スポーツ・文化芸術、観光・国際交流は同じ日です。よろしくお願いします。

○水越会長 スケジュールを含めて、よろしゅうございますでしょうか。スポーツ・文化芸術と観光・国際交流は横並びで並行で恐らくやることになる。それより1日ずつずれて生涯学習があるということですね。おわかりのとおり、生涯学習は非常に項目が多いので、これだけでもう十分という分量がございますので、一つの分科会で構成されております。

それでは、このような形で我々はこれから別れて、基本、来月2回、この分科会をやって、7月にまとめの全体の会をやる。と同時に、横断領域のことはまた最後のときに考えなくてはいけないということになりますね。この5つ以外に、5つの横串といいますか、5つから漏れる分野があって、それについては最後の7月に考えるということになります。

ここまでで分科会が決まりまして、皆さんのいわば配属みたいなものも決まったということで、まずはよろしゅうございますか。

それで、ここから少し分科会に分かれてお話をしたいと思うのですが、その前に、分科会をどう進めるのかということは分科会ごとでいいと基本的には思うのです。特性もありますからね。ただ、私の記憶では、以前は一種のワークショップのような形で、事務局の方にもいろいろ入ってもらって言ってもらう。どうしても、こういう会場でこういうように離れているとなかなか話がしにくいということがあって、話をしないのだけれども、いろいろお考えになっている方の意見というのが意外と大事な場合があるので、附箋などに書いてもらって、まずはみんなでばっと並べてみて、みんながどういうことを思っているのかということを出して、似たようなものをカテゴライズしたり、まとめたりしながら、何かをやっていくようなことをやっていたと思うのです。

それを具体的に細かくどうやるのかはそれぞれでいいと思うのですけれども、少し動き回ってざっくばらんに話しながらやっていくような形で進めたほうがいいのではないかと私のほうでは思っています。私自身がそういうもののやり方の研究をしている人なので、ワールドカフェ形式とか、そういうことばかりやっているのです。

繰り返し言うと、細かいところまでは決めずに、この五、六名の方で話し合っていていただければよくて、今回は前回に比べると人数が減っていますので、五、六人だといろいろとざっくばらんに話せるということもあると思うのですが、そういうある種のワークショップスタイルでやっていくということがどうかと思いますけれども、いかがでございませうでしょうか。事務局の方々も大丈夫ですか。

○竹越課長 次回の分科会は、こういう口の字で机を並べて、遠くにいらっしゃって名札がなかなか読めないというわけではなくて、机を近づけて車座のようになって御自由に意

見が言えるように予定しています。

なかなか御意見を言い切れなかったとか、よくよく考えたらもっとこういうことが言いたかったというのは、後で私ども事務局とメールのやりとりとか、メールができなければお手紙などを出していただくような形での意見の集約ということはしたいと思います。次の会議にお越しいただいた際に、メールのアドレスなどを教えてもらってよろしければ伺って、それでやりとりをするということも考えています。そういうものはやらないよという方はお手紙でやりとりをさせていただく。限られた短い時間なのでですけれども、そういう形を考えております。

○水越会長 では、そういうメールなどで後でしっかり言うというルートと、模造紙なり附箋なりを用意してもらうということですね。

細かいことですが、附箋は75ミリ角のこれがよいです。それと、済みませんが、サインペンを用意してください。これを細いボールペンなどで書くと後で見えなくなってしまうから、必ず黒い100円で売っているサインペンなのですけれども、ああいうものが一番みんなから見えやすいですから、細かいことですが、そういうものを用意してもらうといいと思います。

色は、サインペン自体は黒だけでいいですけれども、全体をカテゴリーするときには、ポスカとか、ああいう色がついて裏ににじまないものがありますから、7色などあるようなものが3セットあればいいと思います。細かいことですが、附箋は3色あればいいと思います。2色でもいいですけれども、4色、5色になると使い分け切れないので、せいぜい3色。でも、1色だけではないほうがいいです。

2回ございますので、ぱっと出してからまとめるみたいなことなのですかね。わかりませんが、それはもうお任せをしたいと思います。よろしいですか。

ここまでで、まずはよろしいですか。

○竹越課長 よろしければ分科会ごとに顔合わせをしていただきます。事務局職員が3カ所に分かれています。

○水越会長 角ごとに集まるという感じですか。

○竹越課長 はい。集まっていたいで、そこで五、六人の委員の皆さんと、それに関係する今度はそれぞれの分科会にお伺いする係長級の職員と顔合わせをしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○水越会長 各分科会の方々、よくおわかりかと思うのですけれども、ぜひここは申しわけないですが、事務局の方にいろいろあれを出してくれ、これを出してくれということを行ったほうがいいと思います。かつては、文化芸術だとかにかく歌舞伎から何から全部カタログやチラシを出してくれということをして、お話を聞いたりしました。そういうものをもう用意されているみたいですが、現場の苦労話もちゃんと聞かないといけないので、人数、これだけしかいないのかということとで頑張っているのだみたいなこともありますから、ぜひ委員だけではなくて、事務局の方にいろいろ言って出してもらうよう

にしてください。

それでは、何かきょう早目に終われそうでうれしい感じがしますけれども、一応8時15分になったらここらまた座っているという形で、もう10分ぐらい前には終わろうと思えますけれども、今から15分強ぐらい少しグループで集まって話をしてもらえればと思います。

○竹越課長 それぞれ職員が3つに分かれて立っていますので、そのあたりにそれぞれの分科会の方にいらしていただければと思います。生涯学習の分は、田中先生が今、いらっしゃるところあたりで、観光・国際交流は久松先生が今、いらっしゃるあたりです。スポーツ・文化芸術は、水越先生がいらっしゃるあたりに分かれていただければと思います。

あわせて、担当の区の職員のほうも御挨拶をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(分科会顔合わせ)

○水越会長 各分科会とも、我々は何となくこれを見てすごいねみたいな話で終わってしまったようなところがあって、私が議事進行が終わってぼんやりしていたということもあったのですが、6月の最初の会では、少し考えていたことやこういう資料を眺めさせてもらった上で、我々の分科会はとりあえず区の方々のいろいろな質問責めにして、いろいろ出してもらって、その上で、考えていることを書き出していこう。そのときに、事務局の方にも、ちょっとややこしいのですけれども、事務局という立場を離れて書いてもらおう。それをもとに1回目である程度出して、2回目でまとめていくということをやります。取りこぼしがあれば、個別の人から意見を先ほどのメールや手紙で送ってもらうなりしようという話になりましたけれども、ほかはどのような感じでしたか。

○久松副会長 観光・国際交流は、2回ありますので、15日は基本、観光の日、21日のほうは国際交流の日。ただ、観光のほうの方が量が多いですので、それが詰まってしまったら21日にも入っていいよねという感じでやろうと。それで、3種類の附箋を用意していただいて、お話を伺いながら、最初の1色目には評価、2色目には2段落目の今後の方向性、3色目はそのほかを書いて、貴重なあれですから、実際にうまくいかどうかかわからないのですけれども、それで何とか15日中にうまくいけば模造紙にばたばたとやる。できなければ21日のところでそれをやって、時間が短いところで国際交流をやる。1回やれば2回目は短い時間でやれるのではないかと、そういう発想でございます。

○水越会長 わかりました。

田中さん、お願いします。

○田中委員 我々は、水越先生も言われたように、初めにまず事務局に対してわからない点やら、いろいろな意見があればどんどん言ってみようということをして最初の何分かやって、その後で附箋に何らか張りながら、模造紙に張っていきながら、ある程度初日で少しグループに分けることもできればいいかなという感じです。初日にできたものを写真に撮って、それぞれまた持って帰るかあるいはメールで送っていただいて、またそれぞれが見ておい

て、何か思いつくことがあれば考えておいて、2日目に、その初日につくったものをさらに肉づけしていくという形です。2日目が終わった時点である程度出ている、この紙に一定期限を決めて、それぞれの方が考えを出して、事務局に提出する。それを今度は事務局に整理していただいて、最後の会に向けてつくっていただくという感じで話しました。思いつかなかったのは、事務局にもいろいろ出していただくということだったので、とてもいい情報をいただいたので、我々も事務局にもたくさん出していただくということで考えたいと思います。

以上です。

○水越会長 ありがとうございます。

細かいことですが、写真は模造紙にぺたぺた張られたものをスマートフォンなどで撮ると相当きれいに写ります。それで全然十分で、その紙がなくても大丈夫なぐらいだと思います。そういうものでちゃんと撮っておけば、お持ちでない方にもメールなどで送れるし、印刷して出してもいいと思います。

あと最近、そうやって撮った写真の中の附箋の位置を後で自由に動かせるようになって、ポストイットを出している会社がポストイットプラスというアプリケーションを出していて、これは画期的で、そのままエクセルに張り込めます。パワーポイントにも出せる。それが無料で、何かだまされているのではないかと思いますけれども、ポストイットプラスというアプリケーションがあります。相当の認識力なので、いずれにしても、これは事務局の方に申し上げているのですけれども、お忙しいと思うので、とりあえず写真に撮っておいて後で配るので十分だと思います。それでもう一遍エクセルなどに置きかえてという作業も大変だと思いますので、そのほうがいいのではないかと思います。

それでは、今後のことについて分科会に分かれてお話をいただきました。先ほど既に連絡事項はしていただきましたけれども、改めて必要な点について、竹越さんから御指示いただければと思います。

○竹越課長 それでは、改めてもう一度スケジュールの確認をさせていただきます。

御案内の通知は7月の会議まで含めて全部まとめるような形で出させていただきますが、まず、生涯学習の分科会は6月16日金曜日と6月22日木曜日、スポーツ・文化芸術の分科会は6月15日木曜日と6月21日水曜日、同じく観光・国際交流の分科会は6月15日木曜日と6月21日水曜日、いずれも6時半からになります。場所につきましては、改めて御案内をさせていただきますが、基本的にはこの区役所の庁舎の中のどこかということで御案内をさせていただきますと思っています。

2回目のアカデミー推進協議会は7月19日水曜日6時半から開催の予定です。基本的には庁舎の中を考えておりますが、また改めて御案内をさせていただきます。

本日の資料についてですが、基本的にはお持ち帰りいただくのですけれども、量が多くてという場合は、名札のところに置いていただければ、私どもでそのままお預かりをして次の会議のときに名札のところにその資料をそのまま置かせていただきますので、どうぞ

そのままわかるように名札のところに置いてお帰りいただければと思います。

先ほど会長からいろいろ分科会のやり方についてお話もいただきましたが、3人学経の先生、ちょっとだけお残りいただいて、最後の確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

私どもからの説明は以上でございます。

○水越会長 ありがとうございます。

皆さんのほうから何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。

事務局からも大丈夫でしょうか。

それでは、これで第1回の推進協議会を終わりたいと思います。

皆さん、どうもありがとうございました。